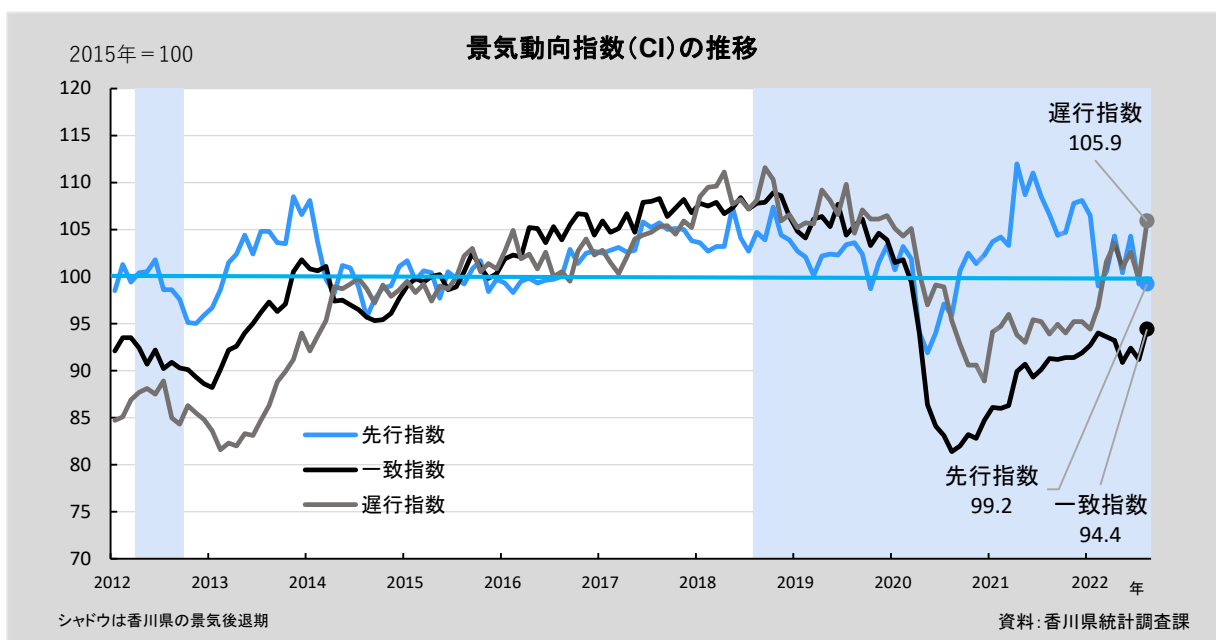


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	緩やかに持ち直している。
住宅投資	横ばい圏内の動きとなっている。
公共投資	減少している。
生産活動	緩やかに持ち直している。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	持ち直している。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月ぶり上昇



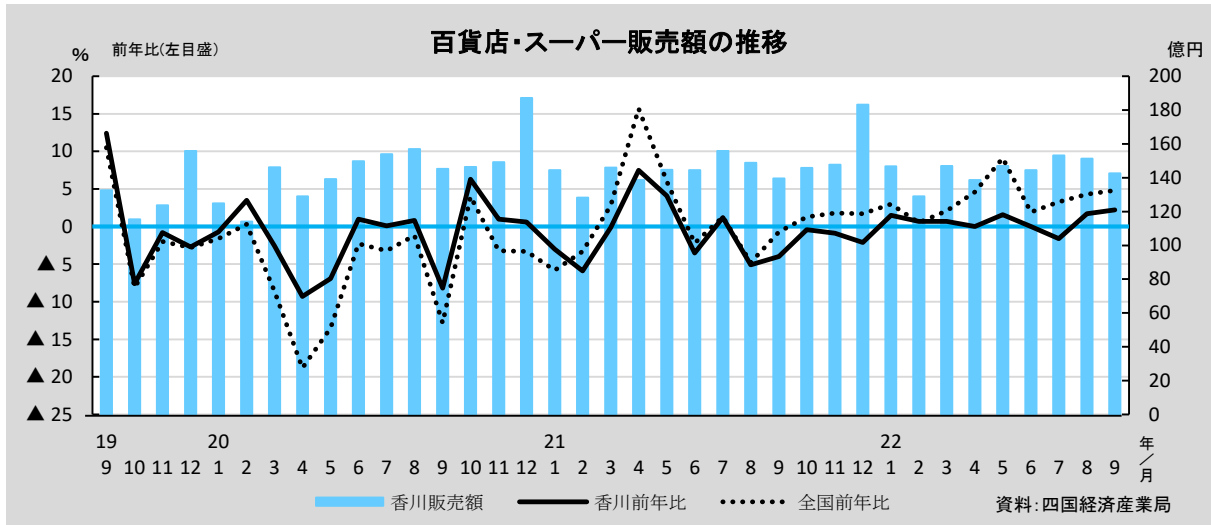
景気の現状をみると、8月のCI一致指数は94.4（前月比+3.2ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI先行指数は99.2と横ばい。CI遅行指数は105.9（同+6.2ポイント）と2カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数、有効求人倍率、所定外労働時間指数などが上昇に寄与したことにより、前月から3.2ポイントの上昇となった。

採用 景気 指標	先行系列		一致系列		遅行系列			
		寄与度		寄与度		寄与度		
1	新規求人数	0.14	1	雇用保険受給者実人員	0.20	1	常用雇用指数	0.10
2	乗用車新車登録台数	▲ 0.71	2	有効求人倍率	0.52	2	有効求職者数	1.51
3	鉱工業在庫率指数	▲ 0.96	3	所定外労働時間指数	0.47	3	消費者物価指数	1.14
4	生産財生産指数	0.13	4	鉱工業生産指数	0.19	4	家計消費支出	0.71
5	新設住宅着工戸数	0.62	5	鉱工業出荷指数	1.16	5	鉱工業在庫指数	1.39
6	金融機関貸出残高	▲ 0.11	6	建築着工床面積	0.22	6	法人事業税調定額	0.93
7	消費者態度指数	1.05	7	百貨店・スーパー既存店販売額	0.39	7	第3次産業活動指数	0.60

●百貨店・スーパー販売額

2カ月連続増加 ↑

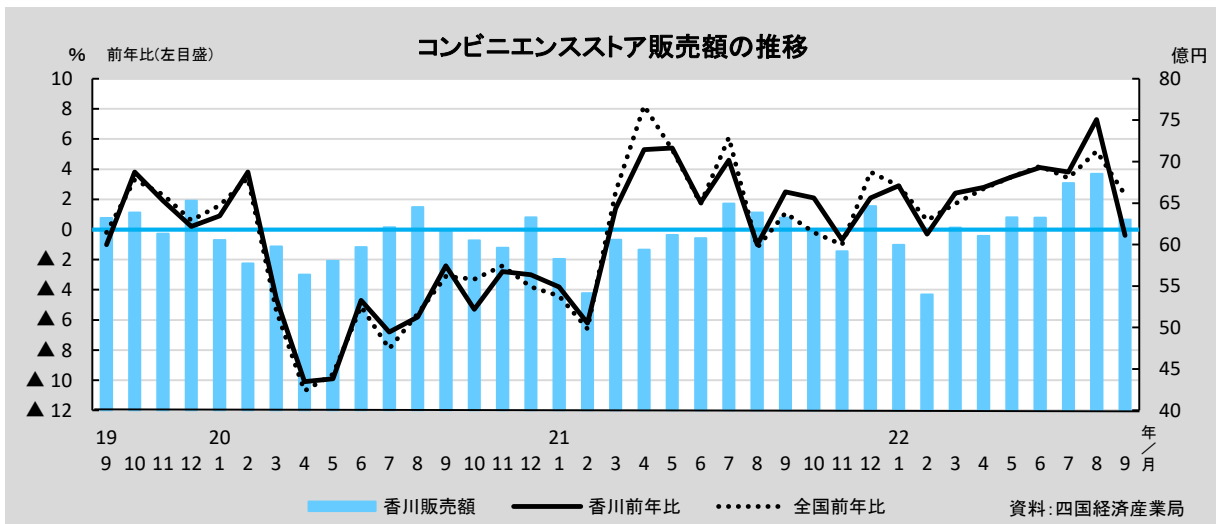


2022/9月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	83,231	56,644	1,080,779	1,334	4,287	22,043	177,216	353	1,425,887
前年同月比(%)	7.6	21.2	1.6	▲26.2	▲4.4	▲5.7	▲0.2	▲2.5	2.2

9月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は142.6億円で、前年同月比+2.2%と2カ月連続で増加した。「飲食料品」は+1.6%と堅調に推移、外出機会の増加で「身の回り品」は+21.2%、「衣料品」は+7.6%と好調だった。

●コンビニエンスストア販売額

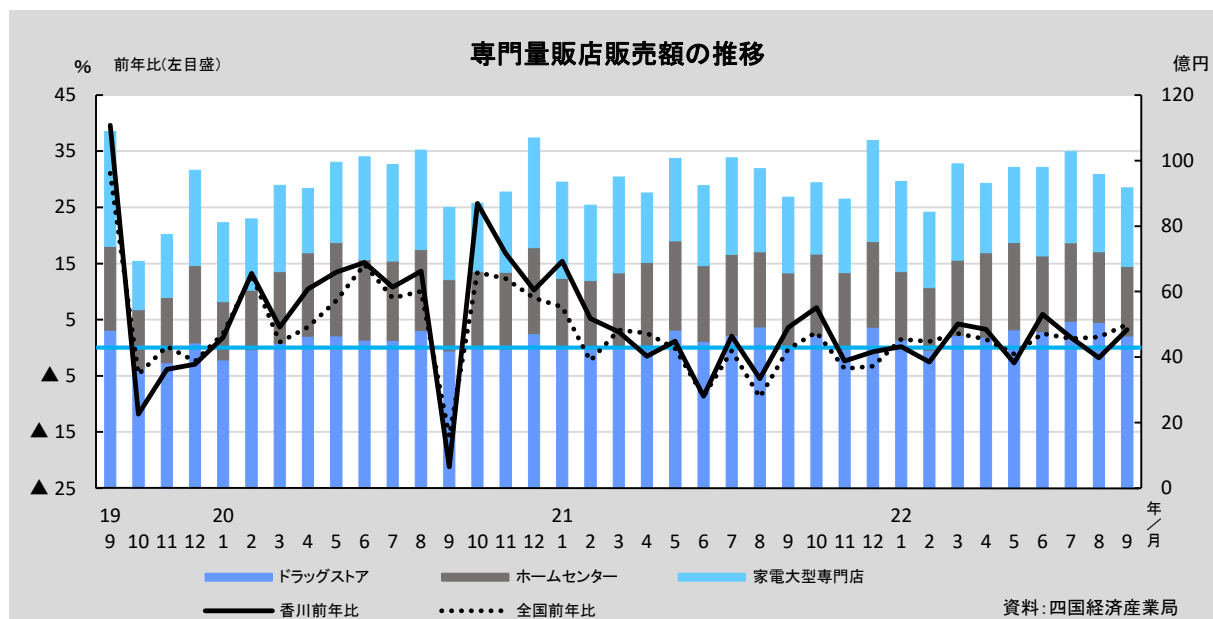
7カ月ぶり減少 ↓



9月のコンビニエンスストア全店(408店)の販売額は63億円で、前年同月比▲0.4%となった。たばこの値上げ前の駆け込み需要が前年に比べて少なかったほか、一部台風の影響もあり、7カ月ぶりの減少となった。

●専門量販店販売額

2カ月ぶり増加 ↑

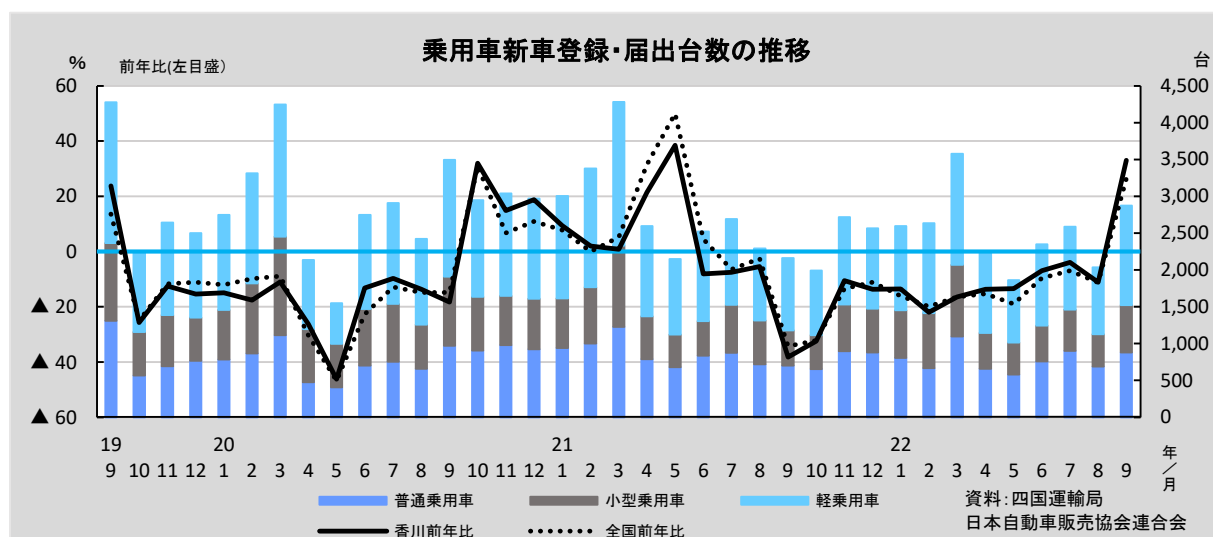


9月の専門量販店全店（209店）の販売額は91.7億円で、前年同月比+3.2%と2カ月ぶりに増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、気温高でのエアコンや新製品投入の携帯電話が伸び、販売額は24.1億円で前年同月比+4.2%、**ドラッグストア**（134店）は、値上げ前の駆け込み需要での酒類や調剤医薬品が伸び、販売額は46.4億円で同+6.5%となった。**ホームセンター**（46店）は、入店客数が減少し、台風の影響で園芸が伸びず、販売額21.2億円で同▲4.3%となった。

●乗用車新車販売台数

16カ月ぶり増加 ↑



9月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,874台で、半導体不足が顕著だった前年の反動増で、前年同月比+33.1%と16カ月ぶりに増加した。

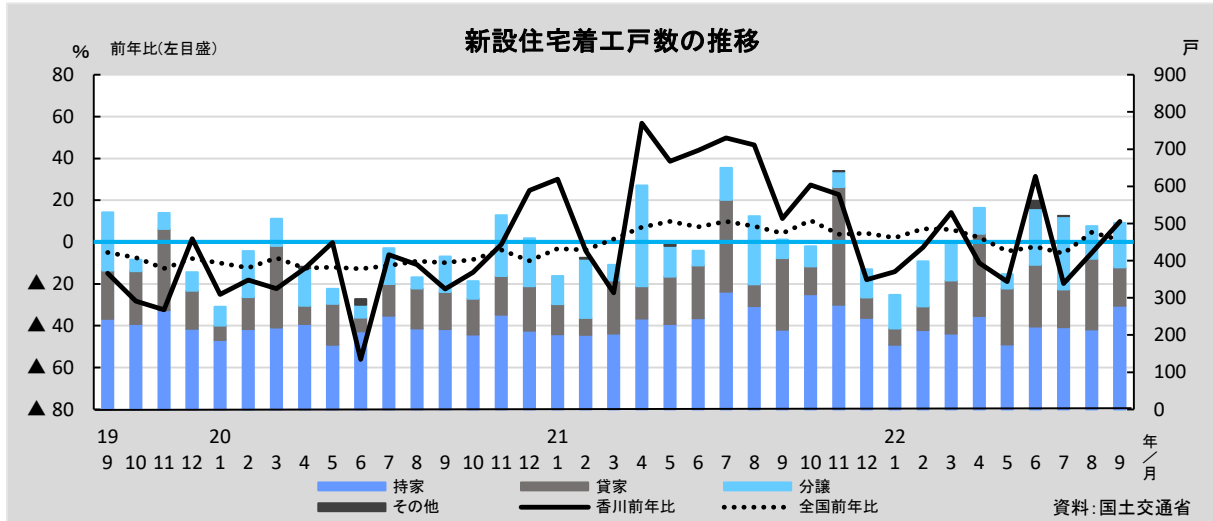
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+25.3%、小型乗用車で同+34.7%、軽乗用車で同+37.8%となった。

住宅投資

横ばい圏内の動きとなっている

●新設住宅着工

3 カ月ぶり上昇 ↑



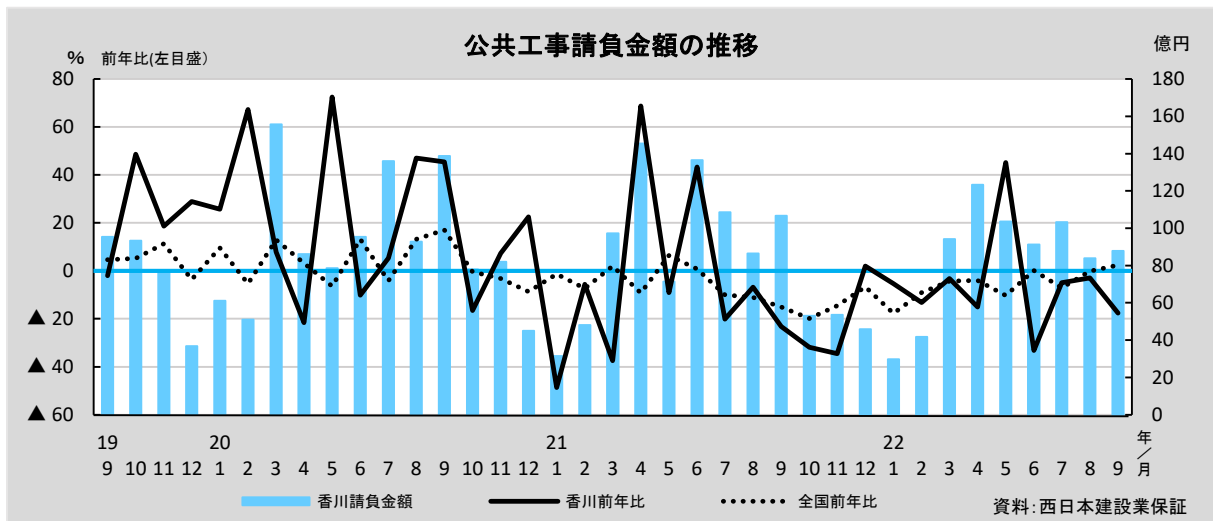
9月の新設住宅着工戸数は502戸で、前年同月比+9.8%と3カ月ぶりに上昇した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+30.4%、**貸家**で同▲46.6%、**分譲住宅**で同140.0%となった。

公共投資

減少している

●公共工事請負金額

4 カ月連続減少 ↓



9月の公共工事請負金額87.9億円で、前年同月比▲17.5%と4カ月連続で減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+67.4%、**県**で同▲27.3%、**市町**で同▲23.6%となった。

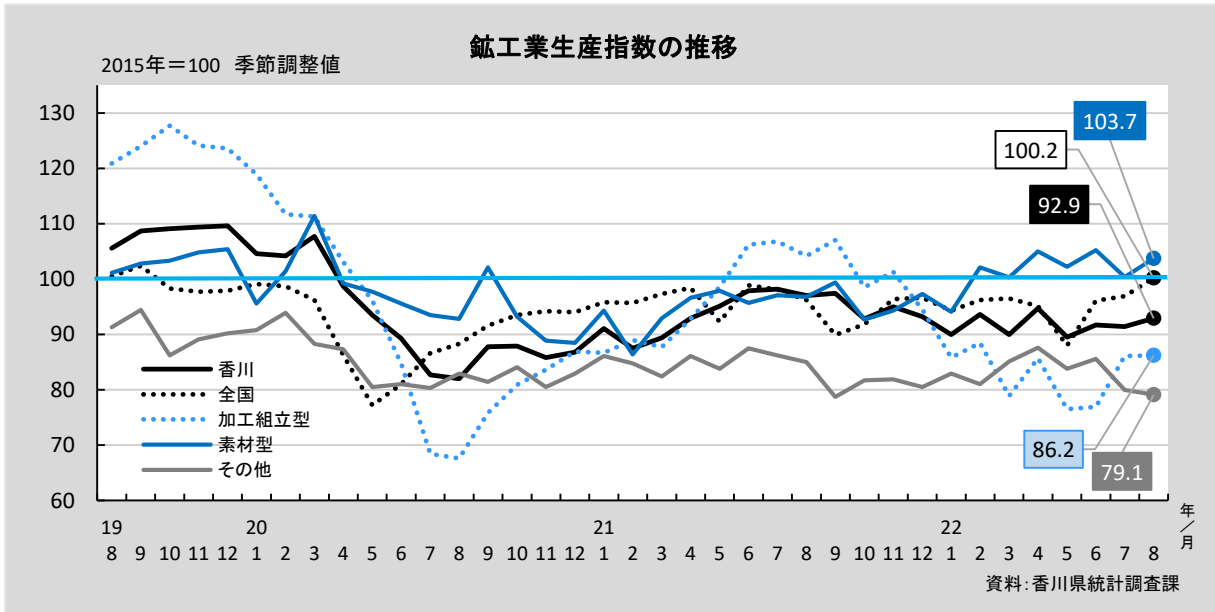
2022.4月～9月の累計では前年同期比9.4%減少している。

生産活動

緩やかに持ち直している

● 鉱工業生産指数

2カ月ぶり上昇 ↑



8月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は92.9（前月91.4）となり、2カ月ぶりに上昇した。

業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+10.5%、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同+11.3%と上昇した。

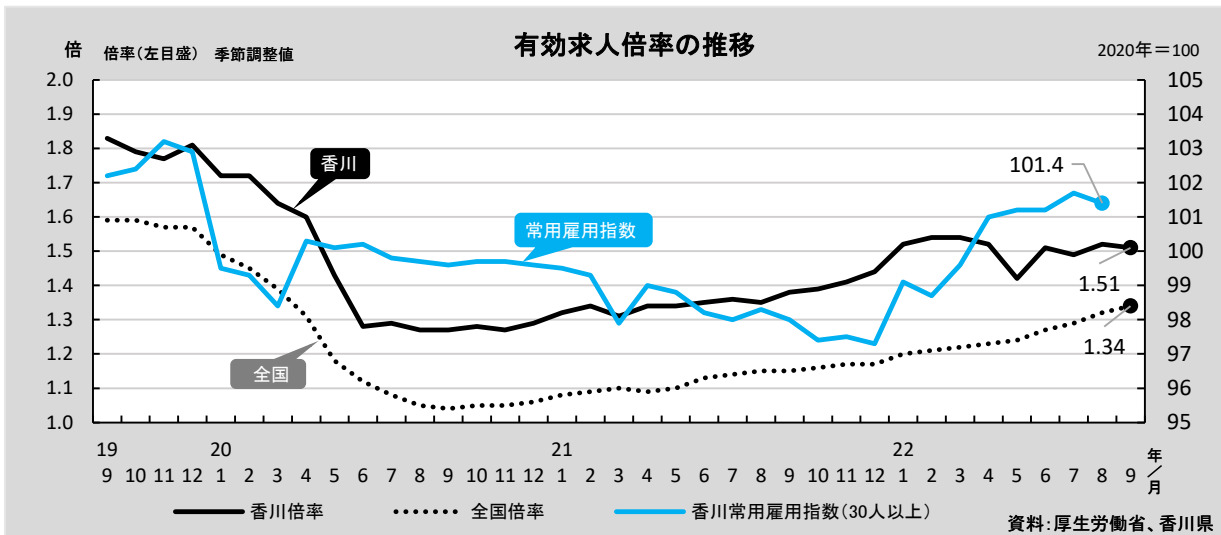
一方、素材型のプラスチック製品工業（フィルム・シートなど）は同▲10.1%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

2カ月ぶり低下 ↓



9月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.51倍（全国15位）と前月より0.01ポイント低下した。

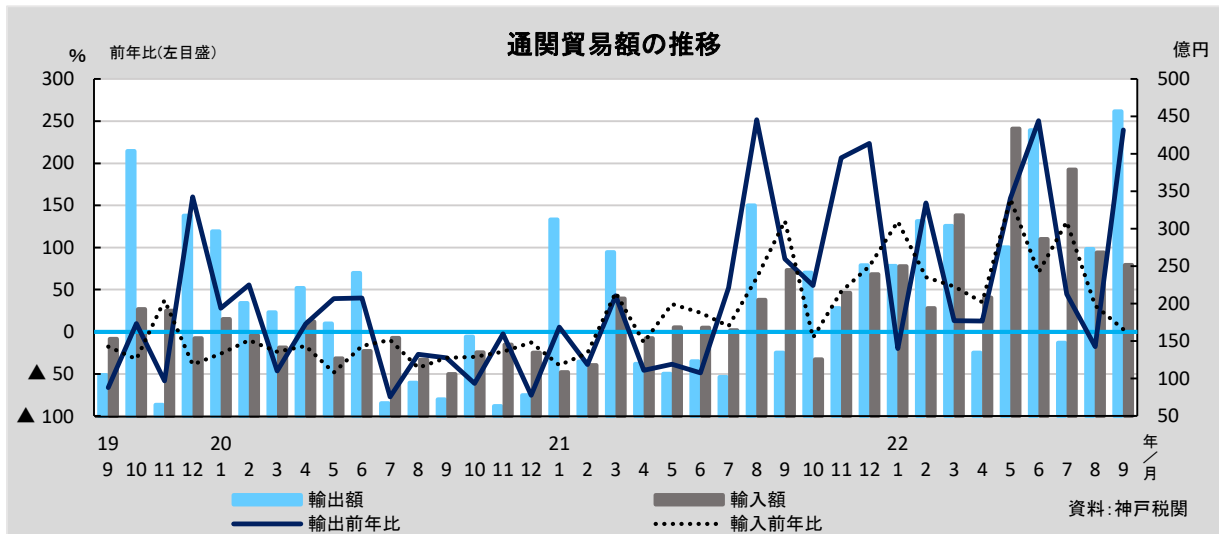
新規求人（原数値：前年同月比）は、教育・学習支援業、生活関連サービス業・娯楽業、宿泊業・飲食サービス業等で増加し、全体で+15.9%と18カ月連続で増加した。

8月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、101.4となり、前年同月比は6カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	1.93
事務的職業	0.65
販売の職業	2.62
サービスの職業	3.37
生産工程の職業	2.50
輸送・機械運転の職業	2.13
建設・採掘の職業	5.99
運搬・清掃・包装等の職業	1.15

貿易

輸出、輸入ともに増加している



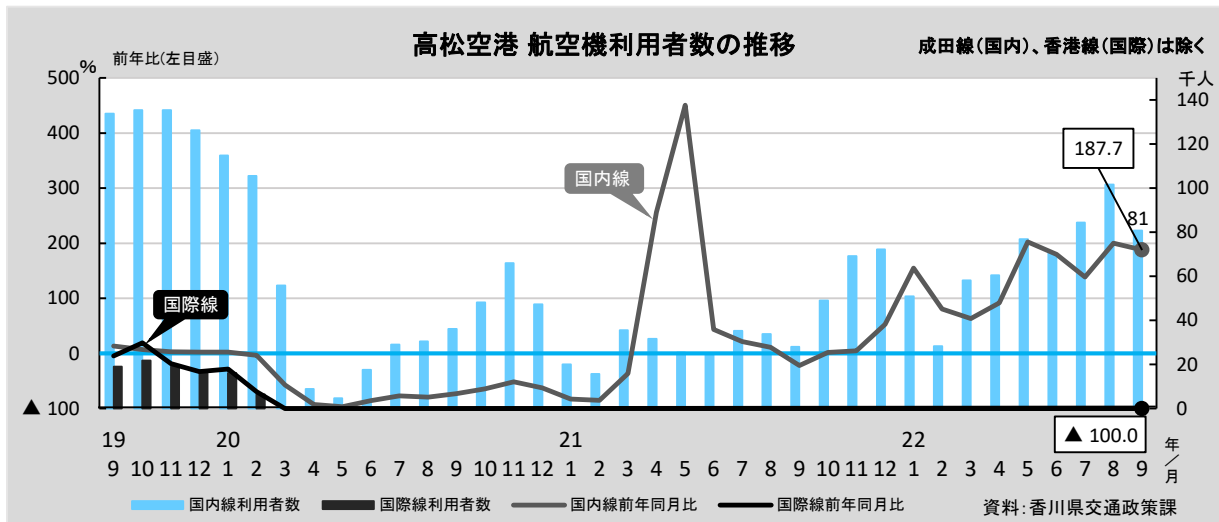
9月の輸出額は前年同月比+239.4%の456.7億円、輸入額は同+2.7%の251.7億円となり、差し引き205億円の出超となっている。

輸出は、貨物船輸出額が前年同月比6.4倍の211億円となった。輸入は、石炭輸入額が前年同月比+75.8%の125億円となった。

交通

国内線は12カ月連続増加、国際線は31カ月連続全面運休

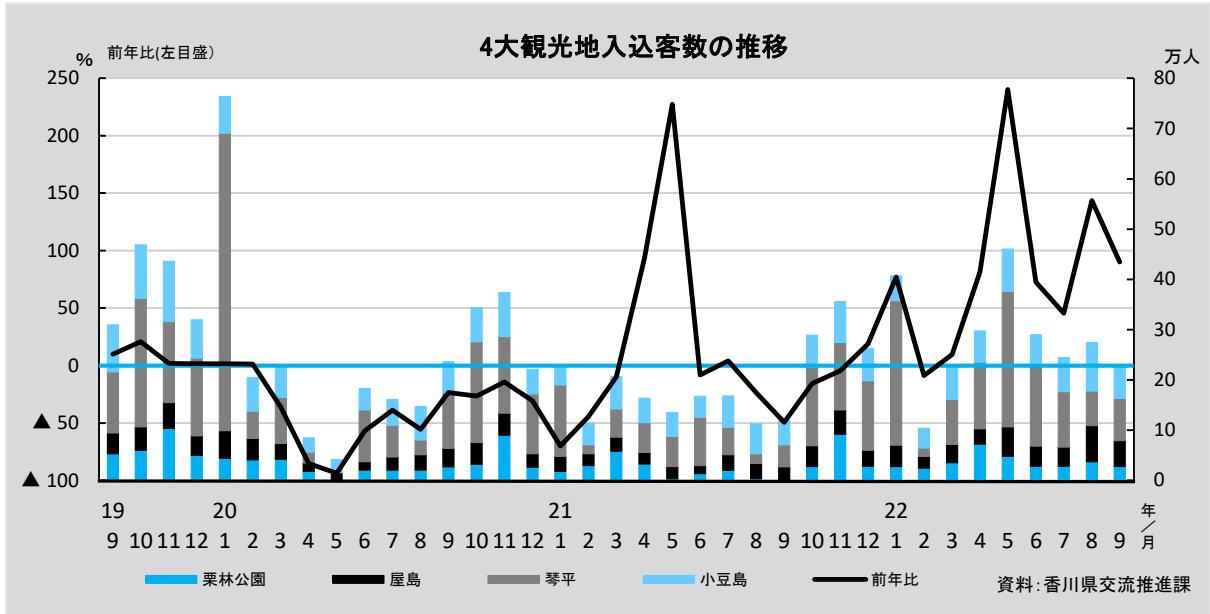
●高松空港旅客輸送実績



9月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が80,691人(前年同月比+187.7%)となり、12カ月連続で増加した。羽田線は77,302人(同+182.9%)、那覇線は3,389人(同+368.7%)となった。コロナ禍前の2019年同月比では▲39.7%となった。

国際線(ソウル・上海・台北線)は2020年3月から全面運休が続いているが、新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、2022年11月23日からソウル線、2023年1月19日から台北線の運航再開が決定した。

●主要観光地入込客数

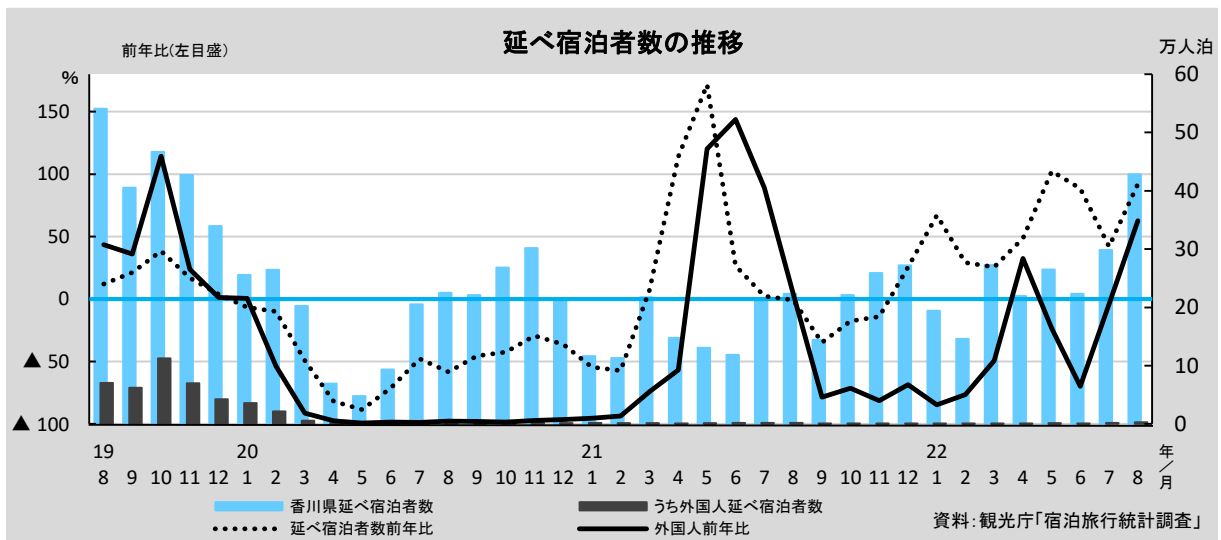


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
9月(人)	前年同月比	27,541	12830.0%	51,271	92.2%	84,000	90.9%	64,146	32.3%	226,958	90.1%
1~9月累計(人)		326,998	83.9%	392,385	68.5%	1,220,000	122.2%	591,292	29.2%	2,530,675	78.5%

9月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+90.1%と7カ月連続で増加した。栗林公園は前年のコロナ感染拡大による休園の反動増で前年同月比約130倍、屋島は同+92.2%、琴平も同+90.9%と高い伸びとなった。

1~9月の累計では前年比+78.5%となった。

●延べ宿泊者数



8月の延べ宿泊者数は428,490人で、前年同月比+92.0%と9カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲20.7%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は2,800人となり、前年同月比+62.8%と4カ月ぶりに増加した。2019年同月比では▲96.0%となった。